

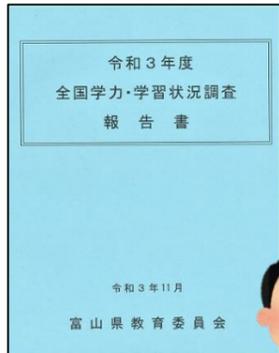
がんばる富山の先生を応援!



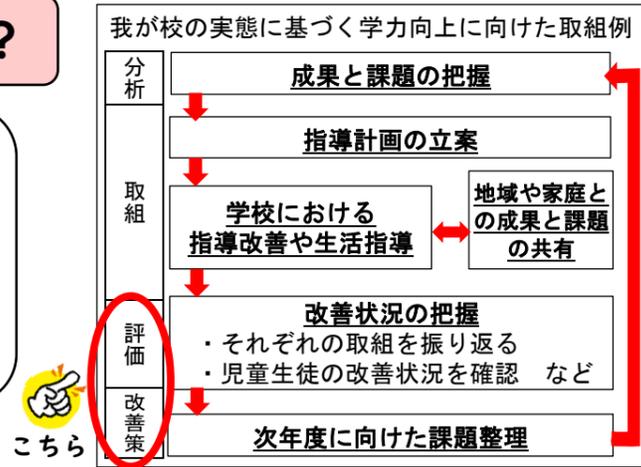
各校の学力向上に向けた取組を振り返ってみましょう。

これまでの指導を振り返り、評価する時期となりました。まず、児童生徒に身に付いた学力を確かめてみましょう。そして、児童生徒の学力の状況を基に、これまでの指導の成果や課題を整理してみましょう。3学期には、児童生徒の課題を踏まえて日頃の学習指導に生かすミニ研修を行うこともお勧めします。また、学習指導のポイントを意識できるよう教科等の年間指導計画に報告書の関連ページを記入するなど、次年度への準備も始めましょう。

4月からの指導を振り返ってみませんか？



11月に各学校に配布した報告書のP41に示したように、自校の取組について、「改善状況の把握」や「次年度に向けた課題整理」をすることが大切です。



1 児童生徒の現在の学力を把握する。

4月からの学習指導を振り返る際は、児童生徒に学力が付いたかどうか確かめることが大切です。目的に応じて、以下のワークシート類を活用できます。

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているか確認 → **単元確認問題**

学習指導要領の領域や内容ごとに求められている力が身に付いているか確認 → **設問別ワークシート**

知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力等が身に付いているか確認 → **力を試そう 富山県オリジナル問題(R3~)**
B問題に挑戦(~R2)

力を試そう 富山県オリジナル問題(小学校国語科)
※今年度は、小学校国語科と中学校数学科を作成

※ワークシート類は、学力向上推進チームHPよりダウンロードできます。

2 児童生徒の状況(1の結果等)を基に、日頃の学習指導を見直す。 3学期からの指導に生かせる研修例(研修時間30分程)を紹介!

研修例1 「児童生徒のつまずきから指導のポイントを考える研修」

報告書を参考に、自校の課題に関連した調査問題を選ぶ

〈研修の流れ〉

- ①調査問題を教員が解く。
 - ・どのような力が必要なのかを把握する。
- ②どのような誤答があるのか確認する。
 - ・自校の誤答はどのようなものかを確認する。
 - ・そのような誤答になる要因を考える。
- ③日頃の指導で気を付けるポイントを一人一人がまとめる。
 - ・自分が担当する学年・教科でどのようなことに気を付けて指導するかを考える。

(例) 中学校国語科「自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にする」という課題について研修

生徒の誤答を見ると、どこが根拠となっているのか分からない記述が多いですね。

自分の考えの根拠を明確にして書く学習活動を授業に取り入れてみよう。

「日常的な事象を比例とみなす活動」と「解決の方法を説明したり記述したりする活動」が大切ですね。朱書きで書き足しておこう。

学力が身に付いたかを評価するために調査問題を活用することを明記しておこう。

研修例2 「模擬授業を通して指導のポイントを考える研修」

「授業アイデア例」から、自校の課題に関連した例を選ぶ

〈研修の流れ〉

- ①教師役、児童生徒役、参観者に分かれ模擬授業を行う。
 - ・自校の実態に応じて、模擬授業のねらいを焦点化する。
- ②それぞれの立場から気付いたことを話し合う。
 - ・児童生徒はどのような思考をしているか。
 - ・どんな発問や活動の設定が効果的か。
 - ・自校の実態に合わせ工夫できることはないか。など
- ③日頃の指導で気を付けるポイントを一人一人がまとめる。
 - ・模擬授業を通して気付いたことを、日頃の学習指導で生かすためのポイントを考える。

(例) 小学校算数科P9、10「どちらが速いかを判断しよう」の模擬授業を取り入れた研修

教師役: 分速80mとはどういうことですか。式から求められた答えについて考えてみましょう。

児童役: 数直線に表してみると…

参観者: 問題場面を数直線や図で捉える活動を大切にしていきたいな。

3 1の結果や2の研修でまとめた指導のポイント等を基に、次年度に向けた年間指導計画の見直し・作成をする。

〈年間指導計画の見直し・作成の流れ〉

- ①自校の課題に関連する内容を年間指導計画で確認する。
 - ・課題が、どの教科・学年・時期・単元と関連するのかを明確にする。(関連単元等を確認する際に「対策のヒント」を活用することができる。)
- ②次年度の年間指導計画を修正したり、具体的な方策等を書き足したりする。
 - ・2の研修でまとめたポイントや報告書で示された内容等を追加して記載する。(日常的な取組なのか、特定の単元での取組なのかを意識して位置付ける。)
 - ・児童生徒の学力を適切に評価する場面を計画的に設定しておく。(ワークシート類を効果的に活用する。)

(例) 中学校数学科でみられた課題「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」を踏まえた年間指導計画の見直し・作成

課題を踏まえて「比例と反比例の利用」の指導計画を見直しましょう。

「日常的な事象を比例とみなす活動」と「解決の方法を説明したり記述したりする活動」が大切ですね。朱書きで書き足しておこう。

学力が身に付いたかを評価するために調査問題を活用することを明記しておこう。

	時	目標	学習活動	備考
比例と反比例の利用	1	日常生活の問題を比例や反比例を利用して解決することができる。	比例や反比例を用いて解決する。	日常的な事象を比例とみなす活動や解決の方法を説明する活動を取り入れる。(R3報告書P20より) R3調査問題7を評価問題に活用
	1	日常生活の問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。	比例のグラフを利用して解決する。	

学力向上に向けた取組案を考える際には…

報告書のP23~39「質問紙調査結果の概要と分析」には、手立ての例が「◎下線」で示してあります。自校の取組に合った項目を選んで参考にしてください。

- 2 学習習慣、基本的な生活習慣等
 - (1)家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(質問小中17)
- ・「よくしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、小学校では全国と比べてやや高く、中学校では全国と同程度である。
- ◎保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」等を活用し、家庭との連携を図りながら、児童生徒が家庭での時間を自分で計画を立てて過ごすことができるような力を育てることが大切である。